

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-1 多様な自然の保全
---------	------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	森林整備課長 前島 和弘	電話番号	0852-22-5173
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	島根CO2吸収・固定量認証制度普及事業		
目的	(1) 対象	制度の趣旨に賛同する企業等	
	(2) 意図	島根県における森林整備の推進に資するために実施する。県内の森林における森林整備に伴うCO2吸収量の認証を行う。	
事業概要	島根県における森林整備を推進するため、企業や団体が行う森林整備活動に対し「CO2吸収量」を認証する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	CO2吸収認証量	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		150.00	270.00	470.00	470.00	
式・定義	認証に基づくCO2吸収		実績値	149.60	264.00	315.00	504.00		
			達成率		176.00	116.70	107.30		%
指標名	式・定義		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	113,197	162,371
うち一般財源(千円)	2,371	2,371

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

島根県は県土671千haのうち、78%に相当する525千haを森林が占めており、森林率は全国4位である。高齢化・過疎化等により適切な管理が行われないうち、放置された森林の荒廃が進んでいる。これらの森林が二酸化炭素を十分吸収できる健全な森林となるよう、整備を着実に進めて行く必要がある。そのためには、企業が参加する森づくりや寄附金による森づくりの支援を活かし、スギ・ヒノキ人工林や病害虫・気象災害を受けた被災森林を中心に整備を行うとともに、森林面積の約60%を占める広葉樹等天然林についても整備を進め、森林による二酸化炭素吸収を増やしていく事も必要となっている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

①この認証制度を通じて、植栽・下刈り・間伐等の森林整備が行われ、その整備面積は111haとなっている。

②参加した企業・団体は10企業、4団体であり、これらの企業・団体から17件のCO2認証申請があり、上記森林整備の施策内容に基づき、約504 t-CO2/年の認証を行った。

③内訳

寄付型	4企業	156.4 t-CO2/年
実践型	5企業・3団体	69.8 t-CO2/年
活動支援型	1企業	1.7 t-CO2/年
寄付者提案型	1団体	275.6 t-CO2/年

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

寄付型のCO2認証量は過去3カ年減少傾向にある。企業数も減少傾向にある。このまま対策を講じないと数年後に成果指標の目標を下回ることも懸念される。

②困っている状況が発生している「原因」

新たな企業に対する「寄付型」の取組を募る活動が十分でない。

③原因を解消するための「課題」

取組を継続する企業等への「しまね森林活動サポートセンター」による指導機能を充実する。一方、森林整備課において新たな企業の参加を募る活動を重点実施する。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

既存企業への指導と新たな企業の参加に向けた活動を、「しまね森林活動サポートセンター」と森林整備課で協調して推進する。

ア既存企業への指導

「しまね森林活動サポートセンター」において、現場指導を行うサポーターを選定し、「実践型」活動に参画する。また、企業が行うCo2認証申請等の指導力発揮のため、

「しまね森林活動サポートセンター」における人員配置等を再検討する。

イ新規企業の参加募集活動

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）